

## 「こかわを訪ねて」の発行にあたって

かつて生活用水として使われていた入曽用水は現在土砂に埋もれ水の流れも分断されて、昔の流れを知ることが難しくなっている。

不老川流域川づくり市民の会では、この入曽用水（こかわ）を訪ねて、こかわとはどんなものだったのか、また今はどんな姿になっているのか調査を試みようという事になった。

この用水について以前から調査研究している会員の案内により、二〇〇二年の初秋、人間公民館から上流側と下流側に分けて歩いてみることにした。水の流れているところや両岸に花や木がきれいに育てられているところがある。用水を上流にたどっていくと用水のそばに古い農家の納屋があり、昔を残すその風景は懐かしく心が和む。進む先々には彼岸花が咲き、蝶が舞い、木の切り株で見つけたヤモリや森の中の巨大キノコ群の発見など結構楽しい。ただ、ここを流れる入曽用水は三面コンクリート板で補強され、水路そのものに自然さが見られないのがちょっと残念。さらにさかのぼると、狭山市と人間の境で道路にさえぎられており、哀れにもそこでぶつかりと用水跡が途切れている。昔はこの先もずっとつながって、きれいな水が流れていたのだろう。今では見る影もない。人間公民館から下流側の狭山市の自転車置き場の下は暗渠になっており、しばらくその暗渠は続く。

金剛院の手前で二手に分かれた痕跡があるも土砂に埋もれて分かりづらい。金剛院を過ぎたころから再び現れる。しばらく歩いて用水のそばにお住まいの古老にこかわについて訪ねる。昭和二〇年代までは冬でもきれいな水が流れ、毎日の生活になくはならないものだったそう。このあと用水は各民家の屋敷の周りを巡りながら時には屋敷の中を通りぬけ続いでいく。不思議なことに用水跡には必ずといっていいほど彼岸花が咲いており、道標のようである。林の中を通る用水跡は一段といい眺め。彼岸花をたどっていくと山王小学校の北東、少し下流で不老川への落ち口に辿りつく。

水の乏しいこの地域で多くの先人たちによって造られ、守られてきたこの入曽用水（こかわ）を、復元して残せないものだろうか。そこで、この状況を多くの人たちに知ってもらいたく、調査した写真や資料を二〇〇二年十一月から二〇〇三年九月まで狭山市内各公民館を巡り、こかわ展と称して写真展を開催することにした。また、その内容を小冊子にまとめ活用できるようにした。

不老川流域川づくり市民の会では不老川の環境を考え、水質の改善、流域の緑の確保を含めた川づくりの活動をしています。

不老川流域川づくり市民の会